

2013. 8. 25 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2013年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

Ⅸ. ローマ書における聖化

(4) 御霊による聖化

テキスト：

「なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ローマ8:2)

聖化が扱われている6~8章で、6章は「罪と自己に死ぬ」、7章は「律法に死ぬ」という深刻なテーマを扱い、8章は「御霊による聖化」という積極的な恵みを説く。以下は、著者のポイントを、竿代なりに置き換えたものである。

この章に見る「御霊の働き」は：

1. 罪と死の原理から解放する(2節)

- ・キリストは、罪深い肉体を取り、その体において私達の身代りに処罰され、罪を終わりにされた(3節)。そしてご自分が勝ち得たホーリネスを信仰者の中に造り出される。
- ・キリストの贖いをあてがう御霊は、信仰者を、過去の罪の咎めから全く解放する(2節)。
- ・さらに聖霊は、私たちが縛っている罪の力(支配原理)から全く解放する。

2. 律法の（真の）要求を全うする(4節)

- ・私達が御霊に従って歩む時、律法の要求(神への一途な愛、無私の隣人愛)が全うされる。
- ・人間の生き方は、「肉(内に住む罪の支配)に従って」生きるか、「(内住の)御霊に従って」生きるかどちらかである。
- ・聖霊は律法の思いを心に注ぐことによって、私達が喜んで律法を行うことを可能とさせる(エゼ 36 章、エレ 31 章)。御霊によって注がれる愛が(5:10)、律法を完成させる。

3. 信仰者の内に住む(9節)

- ・パウロは、御霊の経験と内住のキリストの経験は事実上同一視している。
- ・「エゴではなくキリストが内に生きる」(ガラテヤ 2: 19-20)とは、「かつて古い人によって占められていたその場所」が「キリストによって占められている」ことである。
- ・御霊に満たされた生命とは、御霊が我々のすべてを所有していることをいう。
- ・聖霊の内住は、感覚ではなく、信仰の問題である。

4. 私達の死すべき体を生かす(11節)

- ・復活の力が内に働き、復活への希望によって支えられる。

5. 神の子とされたことを証しする(14-16節)

- ・キリスト者は、奴隸的な恐怖の故に神に従うのではなく、神の子とされた喜びの中に神に仕える。御霊は、私たちの心に神を「天の父」と呼ぶ関係を導いてくださるからである。